

# 人権学習をとおした「自分さがしの旅」 —中学生、高校生(10代)の自己決定

大阪府立伯太高等学校・豊中市立第十六中学校

「人権」の基本は、一人ひとりが個性や能力をいかにしながら、正直に「自分らしく生きる」ことです。今回は、人権学習の実践事例を紹介し、中学生や高校生にとっての「自分さがし」を探るとともに「すべての人が自分らしさを考えながら生きる」ことへの第一歩である「自己決定」について考えます。

自分と向き合い、夢をさがせる学習

—グローバル・スタディーズ(GS)の実践

## 7年目を迎えた「GS」の学習

“夢に向かって頑張る姿がカッコイイ”。大阪府立伯太高等学校(井原貴美代校長)は「総合的な学習の時間」(用語解説参照)として、グローバル・スタディーズ(GS)を実施しています。

この学習は「自分と社会の関係をグローバルに見つめ、自身の進路を切り拓くための時間」として、1998年度より始めています。さまざまなプログラムを通して、自分と友だち、自分と家族、自分と社会、自分と世界、そして、自分と自分について考えていきます。

学習をとおして、▽ありのままの自分を受け入れ、その延長線に他者を尊重する態度を育む▽具体的な人間の生き方を通して、これまでの自分を対象化し、これからの姿を想像する力をつけさせる▽さまざまな教材を通して、個々の問題の意識化をはかり、その解決のための技能を育成する—ことをねらっています。

現在、1、2学年で実施しており、▽いままでの自分をふりかえる(セルフエスティームを育む)▽さまざまな人々の生きかたに触れる(人権問題・多文化理解)▽これからの自分の姿を想像する(進路について考える)—など、「気づき」を視点に学習を進めています。

## 人間関係づくりから

### 「自分さがし」、「夢から仕事」へ

具体的には、まず、「『出会い』を大切に—気持ち伝える」として、他者とのかかわりの中で、人間関係をより良くする方法を学びます。それから、いのちの重さを教える取り組みなどを通して、自分を振り返りながら、自分の「居場所」を考える「自分さがし」へつなげ、そして、「自分を語る」2分間スピーチなどで、「自分のことを伝える—自分を表現す

る」実践を展開します。

さらに、ビデオ学習などを通して、「夢に向かって頑張っている姿」にふれさせ、「夢から仕事」へシフトして、「資格編」「職人編」「好きな仕事」「技術編」に分けて、職業を紹介し、「夢と仕事」について考え、チャレンジする気持ちを促す学習へと発展していきます。

ある生徒は「自分を見つめ直したり、夢や出会いがあって、楽しく勉強できた。前より自分のこと、まわりのこといろんなことがわかってきた。GSって、自分と向き合えて、夢を探せる、そんないい場所(授業)やったんやなーって思った」と学習を振り返っています。



就職準備セミナー

## 「GS」と進路指導は「車の両輪」

また、「GS」学習と進路指導を「車の両輪」としてとらえ、連携しています。「現場で現場の人から学ぶ」として、少人数グループで、大学・短大・専門学校の見学や体験会をはじめ、企業・福祉施設などの見学会や体験会、外部講師による就職希望者向けセミナー、保育所での保育体験(家庭科2学年全員)などを実施しています。

それから、ものづくりの楽しさを体験する「私のしごと館(仕事体験)」や卒業生を中心に招いて、仕事についての体験を聞く「ようこそ先輩」のほか、「夏の体験・レポート」として、介護体験、福祉体験、企業見学やアルバイトなど、体験したことをレポートにまとめ、それを廊下に掲示するなどして、そこで得た教訓を引き出し共有するといった取り組みなども企画、実践しています。

## 生きかたに結びつけ、進路につなげる

今後の課題について、「GS」開講当時から中心になってかかわってきた山本弘教諭は「担当する教師の

世代交代が必要」と前置きした上で、「生き方に結びつけて、進路につなげるという『GS』のねらいや趣旨を次世代につないでいきたい」と話しています。



私のしごと館

## 「生きる力」の育成から「就労」意識の醸成へ —職業体験学習の実践

### 全市的な取り組み

### 「豊中チャレンジプランCUL（カル）」

豊中市立第十六中学校(大友庸好校長)は、「生きる力」を育みながら、就労意識の醸成を図ることを目的に、2学年で3日間の「職業体験学習」(用語解説参照)を実施しています。

豊中市では、新教育課程のねらいの中で、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題解決する資質や能力を育てる」ことが求められていることから、地域社会の人々との交流や社会体験が必要であると考え、1999年度より全市的な取り組みとして、「豊中チャレンジプランCUL（カル）」を実施しています。

### 職業について、調べ、考える

同中学校のCULの取り組みは、1学年ではまず、「職業体験事前学習」として、▽それぞれの職業につくためには、どんな方法があるのかを知る▽身近な人の職業について、働く喜びや、苦勞について知る一ことを学習します。

そして、「職業について身近な人からの聞き取り」として、保護者の仕事について考えたり、関心のある仕事についている身近な人に、どんな方法でその職につけるか、どれほどやりがいがあるのか、どんな苦勞があるのかについて調べることを冬休みの宿題にします。

3学期には、「職業調べ学習」として、各自が興味・関心のある職業について、どんな方法でその職につけるのか、どんな資格がいるのかなどを、図書館などで、調べます。

### 職業希望調査から、実際の職業体験へ

2学年ではまず、▽就労について▽労働の意義▽労

働の義務—について考えます。4月～6月までの間に、道徳、学活、総合の時間を使って、「自分自身を見つめる」「自分の進路を考える」「労働について考える」—学習を行います。

さらに、「労働の現実を聞く」として、ハローワークの担当者を招いて、就労の現実を知ると同時に、働くためにはどんなことを身につける必要があるのかを考えます。

そして、2学年の6月に1回目の7月に2回目の「職業体験希望調査」を実施し、具体的に自分が希望している職業を書きます。夏休み中に、生徒の希望する職場に教師の方から連絡を入れて、「職業体験」ができるか確認をとります。

「職業体験」は11月に3日間実施しますが、9月前半に教師が受け入れ先の会社に挨拶するほかは、生徒自らが会社に電話をしたり、訪問したりして、日程や注意事項を打ち合わせます。

保育所で体験したある生徒は「子どもたちとも仲良くなり、みんながなついてきた時はほんとうにうれしかったです。一人ひとりが個性豊かで、見ていだけで楽しくなりました。今回、体験させていただいて、本当に保育士さんになりたいと思いました」との感想を寄せています。



ファーストフード店での体験

### 仲間づくりを基本に「切磋琢磨」も

「職業体験」を振り返って、担当の堀口龍生教諭は「小学校から中学校までの9年間を見通した指導計画・学習プログラムの作成が急がれます。その中でこれまで大切にしてきた『仲間づくり』を基本にしながらも、一人でも生きていくことのできる力をつけさせることが大切です。また、いろいろな実践を通して『切磋琢磨』することも求められていると思います」と話しています。



銭湯での体験